

## 1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) よりよい生活を望む。
- (2) 本を置く。
- (3) 校歌を合唱する。
- (4) 友人の消息をたずねる。
- (5) なべのソコにあながあく。
- (6) 友人からのタヨリがとどく。
- (7) エイカイワの勉強をする。
- (8) 夏用のイフクをしまう。

## 2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～④の——線部のことばをへ～の漢字を用いて書いてよ。たどきの送りがなを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。
  - ① 北国の夏はみじかい。〈短〉
  - ② うつくしい花がさいている。〈美〉
  - ③ 形をととのえる。〈整〉
  - ④ あたたかいスープを飲む。〈温〉
- (2) 次の①～⑤のことばの読み方の説明としてふさわしいものを、それぞれあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。
  - ① 真昼
  - ② 合図
  - ③ 役場

## 3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ④ 台風
- ⑤ 毎日
- ア 上の字も下の字も音読みすることば。
- イ 上の字も下の字も訓読みすることば。
- ウ 上の字は音読み、下の字は訓読みすることば。
- エ 上の字は訓読み、下の字は音読みすることば。
- (3) 次の①～③の文の——線部にはまちがいがあります。へ～に書かれた字数で、正しいことばを書きなさい。
  - ① 先週の土曜日は動物園に行く。〈三字〉
  - ② 昨夜はささぶねを作って川に流れた。〈三字〉
  - ③ 夜になっても気温があまり下がる。〈五字〉

「ほーっ、みんなやっとなるな。感心、感心——」

足立弘明あだちひろあきがやってきたのは、ランニングをおえたメンバーがひ

と息いれて、肩かたならしのキャッチボールをはじめたときだった。

弘明は自転車にまたがったまま、にやにやしていた。

「どうしたのよ、足立くん。練習にきたんじゃないの？」

野球ぼうはかぶっているが、ユニホームを着ていない弘明に、

みどりがきいた。

「練習？ ごじょうだん。見たらわかるだろうさ。おーい、

みんな。せわになったなあ。」

みどりに、なんのことか、とっさにはのみこめなかった。

「なにをいってるのよ。足立くんはうちのエースじゃないの。まさか……、やめるなんていうんじゃないでしょうね。」

「へっ、へへへえ……。そのまさかさ。」

「ええー。あんまりじゃないの！ そんなの、ひきようすぎるわようー！」

みどりの声が、金属的オクターブにはねあがった。それだけではない。みどりは足をぐいっとふんばって、両手をこしにあてがうと、弘明をぎりぎりつとにらみつけた。

ただならないふたりのようすに気をとられて、真介はキャッチボールの目をはなした。補欠の山下光男は、わき見したまま、真介にボールを投げかえした。真介は弘明とみどりのやりとりに、気をとられていた。光男の投げたボールが、真介のわきばらを、ドスンと直げきした。うっ、真介は息が止まった。

竜太も、キャッチボールどころではなかった。<sup>②</sup>めったにあってない竜太だったが、さすがに顔いろがかわっていた。

みどりは、顔と顔がくっつくほど、弘明につめよっていた。

「せわになったって、どういうことなの？ だれにでもわかるように、はっきりした日本語でいってよ！」

もう目がつりあがっていた。いつもにこやかなみどりちゃんの、大変身。これだから、女の子はこわい。おかあさんにでもなったら、もっとこわくなるにちがいない。

弘明は、たじたじと二、三歩しりぞいた。が、男には、ハツタリというへんてこなみえがある。

「どうって、その、やめるってことだよ。勉強がいそがしいか

ら、なんていっても、いざればちやうからな。ありのままにいつちやうよ。じつは、クリッパスにうつることにしたんだ。」

(中略)

「やめるというなら、むりにはひきとめられないけど、<sup>③</sup>やめる理由をいってもらいたいな。」

竜太にはキャプテンとして、たしかな理由をもとめる権利があった。

「いいにくいなあ。いわなくちゃ、わかってもええないのかなあ……。はつきりいえば、アポロズにいたって勝てないからさ。打てば三振、まもればエラー。点をとられりや、とられっぱなし。おれはもうたくさんだぜ。これ以上、つきあつてられないってわけさ！」

弘明はいいしぶっていたが、さいごは、たたきつけるようにいはいはなった。

「それもわかるわ。」

みどりは、たかまる気持ちをおさえにこえていった。

「足立くんの考えも、むりないって思う。でも、やったらなれなれなと思つたら、チームはおしまいじゃない。だから、みんなこうして、きょうも練習しているのに。このまま、ずうっと一勝もあげられないかもしれない。けど、みんなが目標におかかって、気持ちをひとつにしてがんばっているのよ。あたし、それがすばらしいと思う。<sup>④</sup>勝てないからって、よそのチームへいくのはかんた

んだけど、よわいチームでがんばりぬいて、一勝をあげるよろこびの大きさは、あじわえないわね。」

みどりはもう、弘明をひきとめようとはしていなかった。気持ちちはなれているものをひきとめても、よい結果はのぞめないからだ。

「ああ、あじわえなくてけっこう。おれもう、見切りをつけたんだ。アポロズは勝てやしないよ。補欠がやめるのところがうんだけ。チームの柱のエースがいなくなるんだぜ。かんとくは入院中だしな。このへんですっぱり、解散かいさんしたほうがいいんじゃないか？」

5 弘明は、にくまれ口をたたいた。

「ピッチャーがひとりやめたくらいで、解散するようなアポロズじゃないぞ。ピッチャーは九人のうちのひとりじゃないか。」

竜太が、ふんぜんといいかえした。

「そうだよ、そうだよ。」

「解散なんかしてたまるか！」

真介ましかも好彦よしひこも、口ぐちにいった。

「あたらしい投手をマウンドに立てて、足立くんよりいいピッチングをしてやろうぜ。」

村上清むらかみきよが弘明をにらんだ。

「それが、気のどくなことに、やめるのはおれひとりじゃないんだよな。」

弘明は、いやらしいわらいをうかべて、ゆっくりメンバーを見まわした。

「センターの森口虎二もりぐちとらじがやめるそうさ。あいつ、気がよわいから、あいさつにこられないんだ。いまごろは〈ジュニア・ファイ

ターズ〉で練習しているんじゃないかな。とうぶんは補欠らしいけど、補欠でも、アポロズにいるよりはましだといってたぜ。試合に勝てる見こみがあるだけでも、ましだつてわけだろ。」

「……やっぱり、そうだったのか。虎二のやつ、どうもようすがおかしいと思つたら、よくもあいつめ……」

好彦はくちびるを、ぎゅつとかみしめた。

「まあ、わるく思うなよ。おれ、中学生になったら、野球どころじゃないんだ。あそんでいたら、高校どころじゃないもんな。野球できるのも、ことしがさいごなんだ。そこへ、クリッパースからさそいがあつたんだ。エースが東京へ転校しちゃうから、せひきてくれつてな。おれのこと、もろ手あげて歓迎かんげいしてくれるつてわけ。おい、ぼうし、かえしていくよ。」

弘明がアポロズのぼうしをとつて、みどりにひょいっと投げたときだった。こぶしをにぎりしめていた竜太が、弘明にとびかかつて胸むなぐらをつかんだ。

「ばっきやろう！」

6 竜太が顔をくしやくしやにして、弘明をつきとばした。\*ムサシがおどろいてほえた。弘明をつきとばした竜太は、わあーつと、なきながら、外野のほうへ走つていった。

アポロズの\*前途ぜんとは、ますます\*多難たなんの度をくわえていきつつある。そのことを考えながら、真介は足を投げだして、雑草ざっそうのくきをひきちぎつた。

〈木暮正夫「どんじりチームのVサイン」より〉

(注) ムサシ＝みどりの愛犬。

前途 || 先行き。

多難 || 困難こんなんが多いこと。

(1) — 線① 「見たらわかるだろうさ」とありますが、弘明は、

何を見たらどういふことがわかるだろうと言っていますか。次

の文の  に入るふさわしいことばを、それぞれ本文中から、

①は十一字、②は十字で書きぬいて答えなさい。

① おれのすがたを見たら、おれが  ② ことは  
わかるだろうさ。」

(2) — 線② 「めったにあわてない竜太だったが、さすがに顔い

ろがかわっていた」とありますが、このときの竜太の説明とし

てふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弘明がチームをやめることにおどろき、大きなショックを  
受けている。

イ みどりと弘明のけんかになりそうなりとりにおどろき、  
とまどっている。

ウ 光男がわき見したままボールを投げ返したことにおどろき、  
おこっている。

エ 真介のわきばらをボールが直げきしたことにおどろき、心  
配している。

(3) — 線③ 「やめる理由をいってもらいたいな」とありますが、

これに対して弘明が言っている、チームをやめる理由としてふ  
さわしいことばを、本文中から十五字で書きぬいて答えなさい。

(4) — 線④ 「勝てないからって、よそのチームへいくのはかん

ただけど、よわいチームでがんばりぬいて、一勝をあげるよ  
ろこびの大きさは、あじわえないわね」とありますが、ここで  
みどりが言っている①「よそのチーム」、②「よわいチーム」  
とは具体的にはどこを指していますか。本文中からそれぞれの  
チーム名を一つずつ書きぬいて答えなさい。

(5) — 線⑤ 「弘明は、にくまれ口をたたいた」とありますが、  
このときの弘明の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、  
記号で答えなさい。

ア チームのメンバーとの別れをさびしく思う心の内をかくす  
ためにせいっぱい強がっている。

イ 自分たちの実力のなさに気づかないチームのメンバーを気  
のどくに思っている。

ウ チームのメンバーに危機感きしかんを持たせることで、メンバーの  
気持ちをふるい立たせている。

エ これからどんなにがんばっても勝てそうにないチームのメ  
ンバーを見下している。

(6) — 線⑥ 「竜太が顔をくしゃくしゃにして、弘明をつきとば  
した」とありますが、このときの竜太の説明としてふさわしい  
ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア チームに仲間を残して強いチームへ行ける弘明をうらやま  
しがっている。

イ 弘明をわざとつき放すことで、チームから出ていきやすい  
ムードを作っている。

ウ ロで言ってもわからない弘明を力ずくでチームに残そうと

している。

工 チームを見ずてメンバーまでばかりにする弘明にいかりとかやしさをぶつけている。

(7) 次の本文中の人物から、弘明と同じ考えの持ち主を一人選び、記号で答えなさい。

ア みどり イ 真介 ウ 竜太

エ 好彦 オ 村上清 カ 森口虎二

(8) 本文中の弘明についての説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア エースがいなくなるチームからさそいを受けて、そちらのチームへうつろうとしている。

イ 今のチームから自分一人がぬけても、それほどチームの実力は落ちないと思っている。

ウ 高校でも野球を続けるために、より強いチームで自分をきたえようとしている。

エ 勉強がおろそかにならないように、野球をやるのは中学校までだと親から言われている。

#### 4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いまは多くの人が知っているでしょうが、以前（一九六〇年ごろ）は、\*交尾した若いスズメバチの女王が、どこで\*越冬しているのか、たしかな証拠写真はまだない、といわれていました。ハチの専門家でも、たぶん林の中で、おそらく樹皮のすき間か落ち葉の下ではないか、と想像していたようです。わたしは、冬にだけ羽化する、フユシヤク（冬尺）というガの生態に興味をもち、学生のころから冬になると、とくに\*武蔵野の雑木林を独りで歩きまわって、フユシヤクをさがし種類をたしかめたり、その行動が気温などの環境と、どのように関係しているか、を調べていました。

※、フユシヤクは個体数がすくなく、一日歩いて、みつげられるオスが三種類で合計一〇匹ぐらいあればよいほうで、一日かかって一〜二匹ぐらいのこともありました。

雑木林は冬になると、地面は落ち葉でおおわれ、場所によっては朽ち木がころがっていたり、切りたおされた木の根がひろがっていたりします。

葉を落としたクヌギやコナラの木の梢が、寒風にゆれる二三月から四月まで、誰もいない冬の林の中を歩きまわっていたわたしは、ある日、①いつもいつていた\*清瀬の雑木林にいました。

足もとに朽ち木がころがっていたので、それを手にすると、水気をふくんでいて、もったただでくずれそうな朽ち木でした。ひよっとすると、クワガタがいるかと思ひ、指で木の皮をとって、

中の筋を剥がしてみました。

残念ながら、クワガタはみつかりませんでした。しかし、まわりよりさらに水気の多いところがあったので、そこを指で剥くように割っていくと、穴が現れました。

そこを注意して、まわりの木の筋を剥がすと、何かがすこし動いているのを見つけました。すこしずつ、上につけている木の筋を剥くと、**②**なんと、スズメバチが上向きに横になり、かすかに脚を動かしています。

翅は脚より前、つまり、体の下側に重ねていました。急に明るくなったのと、わたしの指でまわりの湿っている木を動かしたので、ぎこちなく脚を動かすはじめました。

わたしは、すぐに剥いだ木をハチの上のせて暗くし、カメラを出すと、その木をとって、ハチを撮影しました。

これが、**③**わたしが越冬中のスズメバチをみつけた最初の写真です。

この木を調べると、スズメバチが自分でつくった楕円形の部屋は、大あごでかみながら、ぬれた木の端から中に進み、この場所が気に入って、まわりをすこしひろげたという状態になっていました。

これでわかったことは、交尾し、受精した若いスズメバチは、林の中にころがっている朽ち木の中でも、とくに水気をふくんでいて、やわらかく、わたしの指で容易に剥いていけるようなものを、まずさがすことです。そして、大あごで、**④**がりがりと木の折れた断面から中に入りこみ、そこに越冬のための空間(部屋)

をつくるのです。

したがってそれ以後、あちこちの雑木林の中を歩いて、**⑤**こういう朽ち木がみつかる、かならず割って、中を調べることにしました。

すこし樹皮が固くて、指で剥げないようなばあいは、植物用の\*根掘りをつかいましたが、表面が固くても、中が湿っていて、折れた断面がすこしやわらかければ、スズメバチは大あごをつかって中に入れます。

こうして、ひと冬のあいだに、一匹でじっと春を待つ、何匹ものスズメバチの姿を撮影しました。

〈矢島稔「ハチのふしぎと アリのなぞ」より〉

©JKS14-23-01

(注) 交尾Ⅱオスとメスが子孫を残すために交わること。オスが精子を送り、メスが受精する。

越冬Ⅱ冬をこすこと。

武蔵野Ⅱ東京と埼玉にまたがる自然の多い地域。

清瀬Ⅱ東京都清瀬市。

根掘りⅡ土をほったり植物を採取したりするとき使用するスコップの一種。

(1) ※に入るふさわしいことを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ですから    イ しかし  
ウ また        エ たとえば

(2) — 線① 「いつもいつていた清瀬の雑木林」とありますが、筆者がいつも清瀬の雑木林に行っていたのは、何をさがすためでしたか。ふさわしいことばを本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

(3) — 線② 「なんと、スズメバチが上向きに横になり、かすかに脚を動かしています」とありますが、これを見たときの筆者の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア クワガタがいなかったので、がっかりしている。

イ 予想通りにスズメバチがいて、よろこんでいる。

ウ スズメバチがいるのが意外で、おどろいている。

エ スズメバチにさされはしないかと心配している。

(4) — 線③ 「わたしが越冬中のスズメバチをみつけた最初の写真」とありますが、この写真を筆者が撮影するまで、スズメバチは林の中のどこで越冬すると考えられていましたか。ふさわしいことばを本文中から十二字で書きぬいて答えなさい。

(5) — 線④ 「がりがりと」と同じように、 — 線部が音をそのまま表すことばであるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日光がさんさんとふり注ぐ。

イ 風車がくるくると回る。

ウ なべがぐつぐつとにえる。

エ 風がそよそよとふく。

(6) — 線⑤ 「こういう朽ち木」とは、どういう朽ち木を指して

いますか。「朽ち木」という形で、二十字以内(、や。も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(7) 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア スズメバチの女王は、冬まで林の中の樹皮のすき間や落ち葉の下ですごし、朽ち木の中にたまごを産む。

イ スズメバチの女王は、大あごを使って朽ち木の中に入りこみ、仲間といっしょに冬をこす。

ウ スズメバチの女王は、冬に朽ち木の中で生まれ、あたたかくなるまで木の中の部屋ですごす。

エ スズメバチの女王は、樹皮が固い朽ち木でも、折れた断面がやわらかければ中に入れて、越冬できる。

(これで問題は終わりです)



\*00103-1\*

